

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護職員初任者研修講座Ⅳ(こころからたのしく みと生活支援技術) Care staff beginner's training lectureⅣ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護職員初任者研修ユニット必修)	介護職員初任者研修ユニット履修者のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護職員初任者研修講座Ⅰ～Ⅲ、Ⅴ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
和田晴美	福祉棟2F	月・火・水・木の9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
介護職員初任者研修講座Ⅳでは、環境調整と家事、食事、排泄及び終末期の介護について学ぶ。まず介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解したうえで、これに関連させながら、安全で的確な支援方法、利用者の状態・状況に応じた支援の留意点等を講義・演習を通して習得する。				
授業の目標				
①利用者の身体状況に合わせた介護、環境整備のポイントを列挙できるようにする。 ②家事支援の機能と基本原則について、説明できるようにする。 ③食事と排泄に関するからだのしくみが説明でき、安全に支援できるようにする。 ④ターミナルケアの考え方、対応のしかたや留意点、介護職の役割や多職種との連携を説明できるようにする。				
授業の方法				
講義で知識を学び、学内での演習を通して技術の習得を行う。学生は利用者役、介護者役を体験しながら実技を学んでいくが、単に手順を覚えることに集中するのではなく、一つ一つの介護の根拠を考えながら実践していく。また、利用者の立場から介護を受けとめ、より良い方法を考えていく機会としたい。				
学習の成果(学習成果)				
環境調整・家事・食事・排泄・終末期の介護の意義と目的を説明でき、介護に必要な基礎的技術を習得し、利用者の気持ちを考えながら介護技術を実践することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	環境整備① 快適な居住環境整備と介護			
第2回目	環境整備② 環境調整の技法【演習①】ベッドメイキング<課題① 第3回に提出>			
第3回目	環境整備③ 環境調整の技法【演習②】シーツ交換			
第4回目	生活と家事① 家事と生活の理解 【生活環境の演習】			
第5回目	生活と家事② 家事援助に関する基礎的知識と生活支援			
第6回目	食事① 食事に関する基礎知識			

第7回目	食事② 自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的 食事に関する利用者のアセスメント	
第8回目	食事③ 安全で的確な食事の支援【演習③】 <課題② 第9回に提出>	
第9回目	排泄① 排泄に関する基礎知識 (小テスト①)	
第10回目	排泄② 排泄の意義と目的 利用者のアセスメントと安全で的確な排泄の支援	
第11回目	排泄③ 安全で的確な排泄の支援 利用者の状態・状況に応じた排泄支援の実際【演習④】 おむつ交換 ポータブルトイレ<課題③ 第12回に提出>	
第12回目	排泄④ 利用者の状態・状況に応じた排泄支援の実際【演習⑤】 ベッド上排泄	
第13回目	終末期の介護① 終末期に関する基礎知識	
第14回目	終末期の介護② 終末期ケアとは 高齢者の死に至る過程	
第15回目	終末期の介護③ 臨終が近づいた時の兆候と介護 基本的態度 DVD「いのちに寄り添う」視聴 (小テスト②)	
事前・事後学習	授業で不明であったことは、図書館などを利用して次回授業までに調べておくこと。わからない時には担当教員に質問すること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	評価基準Sは、授業の準備(テキスト、配布資料等)が整い、授業に集中している。ディスカッション場面では他者の話に耳を傾け、自らの意見も積極的に述べることができる。
レポート	30%	演習時の振り返り用紙<課題①~③>で評価する。評価基準Sは、提出期限を厳守していること。自分の体験による感想のみならず、利用者側に立って自身の介護を振り返り、課題が明確に記載できていること。
調査報告書		
小テスト	60%	第9回目、15回目に小テストを行い解説をする。穴埋め問題、選択問題、記述問題等
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
①介護職員初任者研修テキスト/中央法規(介護初任者研修講座Iと同じ) ②生活支援技術マニュアル		
履修上の留意点・ルール		
この授業は、介護職員初任者研修修了のための必修科目である。講義・グループワークとも積極的に参加すること。欠席した場合は、必ずその部分の学習を補い届出等は速やかに提出すること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。演習時は身だしなみを整える。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。		